

# 「めまい」は人間の苦痛の代表的なものの一つである—ギリシア神話のイクシオンの話：『変身物語』から— 「めまい」の分類について

## めまいの起源 — ギリシア・ローマ神話『変身物語』

人間の避けることのできない四つの苦しみを仏教では、「生病老死」とする。すなわち、「生まれること」「病気をすること」「老いること」「死ぬこと」の四苦である。「生」と「死」については如何ともしがたい。また、「老」についても今はやりのアンチエイジングがあるが、根本的には避けられないものである。それらと比較すると「病」については、人類はある程度克服の手立てを見出してきた。それが、医学であり、医療である。では、「病（やまい）」による苦しみにはどのようなものがあるであろうか。

神話は、古代の人々のさまざまな思想を反映したものの代表的な一つである。神話は、世界中にあり、わが国も例外ではないが、文章として記録され世界に広く知られている神話群のひとつにギリシア・ローマ神話がある。ギリシア神話は、紀元前15世紀ころから伝えられてきたギリシアの神々や英雄たちの物語である。ローマ神話は、ギリシア神話よりやや新しい。『ギリシア神話』、『ローマ神話』という一つの著作があるわけではなく、神々や英雄たちの物語の総体がギリシア・ローマ神話とみなされるのである。

ギリシア神話およびローマ神話のなかで、登場人物がさまざまなものに変身してゆくエピソードを集めたものに、ローマの詩人であるオウィディウス (Publius Ovidius Naso) (43BC-17ADまたは18AD) 作の『変身物語』がある<sup>1)</sup>

図1. その『変身物語』のなかに次のような一節がある (巻四 458~)<sup>1)</sup>。



図1 オウィディウスの肖像

「ここは「罪人の家」と呼ばれる場所だ。巨人ティテュオスが、九町歩にもわたって身を横たえながら、臍物を秃鷹に喰い裂かれている。タンタロスは、水をとらえることもできない

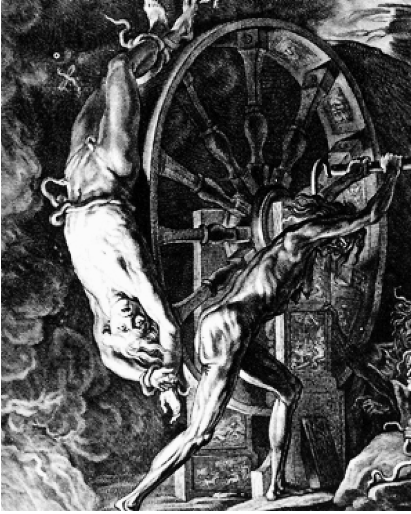


図2 車輪に括りつけられて回されるイクシオン

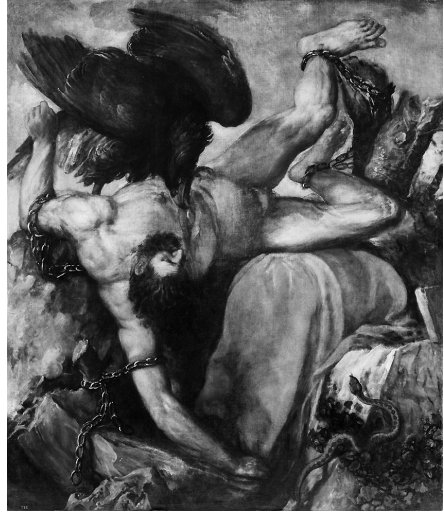


図3 ティテュオス  
(ティツィアーノ作、プラド美術館蔵)

し、頭上の果樹に手をとどかせることもできない。シシュポスは、絶えず転げ落ちようとする岩を、追いかけたり、押し上げたりしている。イクシオンは、車輪に括りつけられて回転し、自分を追いかけながら、同時に自分からも逃がっている。・・・」

これは、『変身物語』のなかにある冥府案内記の一部であるが、逸見喜一郎はその四人の罪人の罰の種類に注目している<sup>2)</sup>。ティテュオスの罰は、おそらく「痛み」をあらわすのではないか。タンタロスの罰は、「渇き」を、シシュポスの罰は、「疲労」あるいは「徒労」を象徴しているのであろう。イクシオンの罰は、「めまい」をあらわしているとされる 図2。こうしてみると、めまいは、ギリシア神話の形成された時代から、代表的な苦痛の一つとみなされていたのであろう。この四人が刑罰をうける絵は巨匠ティツィアーノ (Tiziano Vecellio) (1488 頃-1576) も描いているが、残念ながら、イクシオンの絵は焼失して現存しない。現存するのは、ティテュオスとシシュポスの絵であり、プラド美術館が所蔵している 図3。

## めまい症状の分類—— vertigo と dizziness

上述のイクシオンの話から想起される「めまい」は、車輪に括りつけられて回転しているように回転感の強いめまいであり、現在の医学用語としては、回転性めまい (vertigo) に相当する。「めまい」という用語を狭義に用いる場合は、この回転性めまいを指す。しかし、実際には、回転感に乏しいさまざまな感覚を「めまい」と称することも多く、回転感に乏しいめまいを一括して、非回転性めまい (dizziness) と呼ぶこともある。しかし、非回転性めまいは多彩であり、もう少し細分化した用語を用いたほうが良いだろう。

筆者が臨床で用いている分類を **表 1** にまとめてみた<sup>3)</sup>。基本的には、自己運動感の強いめまいを vertigo とし、その不明確なものを dizziness、なんとなくバランスの悪い感じを unsteadiness、気の遠くなる感じを syncopic dizziness としている。Drachmann の古典的な分類<sup>4)</sup> の修正版ともいえる。Vertigo には、回転感のみならず、身体の傾斜感や上下動などの直線的な運動感も含む。臨床的にはこれで十分ではないかと思う。

2009年にめまい平衡医学の国際学会である Barany Society がめまい平衡障害に関する症候の新分類 (以下

**表 1** めまいの分類

自己運動感の明確なめまい (vertigo)
回転性めまい (rotatory vertigo)
身体傾斜感・直線的運動感 (tilting sensation and translation sensation)
自己運動感の不明確なめまい (dizziness)
浮動性めまい (floating dizziness)
身体の不安定感 (unsteadiness)
平衡障害 (disequilibrium)
失神性めまい (syncopic dizziness)
失神を伴う転倒発作 (drop attack with syncope)
眼前暗黒感 (black out)

(室伏利久. めまいの診かた, 治しかた. 東京: 中外医学社; 2016<sup>3)</sup> より)

表2 Barany Society によるめまい症状の分類

Vertigo (自己回転感のあるめまい)
Spontaneous vertigo (自発性めまい)
Triggered vertigo (誘発性めまい)
Postural vertigo (頭位性)
Head-motion vertigo (頭部運動性)
Visually-induced vertigo (視覚誘発性)
Sound-induced (音刺激誘発性)
Valsalva-induced (圧刺激誘発性)
Orthostatic (起立性)
Other triggered (その他の誘発性)
Dizziness (自己回転感の不明確な空間識の障害)
Spontaneous dizziness
Triggered dizziness
細分は vertigo と同様
Vestibulo-visual symptoms (前庭覚－視覚性症状)
External vertigo (外部回転性めまい)
Oscillopsia (動揺視)
Visual lag (視覚の頭部運動に対する追従遅れ)
Visual tilt (視覚的な傾斜感)
Movement-induced blur (運動によるかすみ)
Postural symptoms (姿勢症状)
Unsteadiness (不安定感)
Directional pulsion (方向性のある転倒・傾き)
Balance-related near fall (バランスに関連した切迫転倒)
Balance-related fall (バランスに関連した転倒)

(室伏利久. めまいの診かた, 治しかた. 東京: 中外医学社; 2016<sup>3)</sup> より. 一部省略, 日本語訳は筆者による)

Barany 分類) を発表した<sup>5)</sup> 表2. さまざまな議論の余地が残っているが, ここで紹介しておく. Barany 分類では, 症候をまず, vertigo, dizziness, vestibulo-visual symptoms, postural symptoms に分類している. Vertigo は, 筆者の自己運動感のあるめまいとほぼ同じである. この vertigo を spontaneous vertigo (自発性めまい) と triggered vertigo (誘発性めまい) に分ける. 誘発性めまいは, 頭位性 (positional) など何によって誘発されるかによって細分される. Dizziness は, 不正な運動感のない空間識の障害と定義さ

れており、これも自己運動感の乏しいめまいという筆者の分類に近い。Dizziness も vertigo と同様の細分化がされている。Vestibulo-visual symptoms は、前庭病変あるいは視覚-前庭覚の相互作用によって生じる視覚的な症状とされている。ちょっとわかりにくいですが、基本的には、自己回転感はないが、周りの景色が、ゆれたり、回ったり、傾いたりする感覚全般を含む。高度の両側末梢前庭機能障害のときに生じる動揺視 (oscillopsia) もここに含まれる。Postural symptoms は、身体が起きているときにのみ生じる姿勢の安定性に関する症状とされる。ここには、特定の方向に倒れたり、傾いたりする pulsion が含まれる。また、平衡障害に関連した転倒全般もここに含まれる。筆者の分類との最も大きな違いは、syncope dizziness (失神性めまい) に相当する項目の有無である。失神性めまいは、むしろ血管・循環器系の問題によることが多いので前庭障害の分類には含まれていないのであろうが、実際に「めまい」の症例をみるうえで不便なようにも思われる。

失神性めまいを象徴するものを神話における罰として書き込むとすると、どのような罰として書き込めばよいのだろうか。

#### ❖ 参考文献

- 1) オウィディウス: 中村善也 (訳). 『変身物語 (上) (下)』. 岩波文庫. 東京: 岩波書店; 1981.
- 2) 逸見喜一郎. 『ギリシア神話は名画でわかる』. NHK 出版新書. 東京: NHK 出版; 2013.
- 3) 室伏利久. めまいの診かた, 治しかた. 東京: 中外医学社; 2016.
- 4) Drachman DA, Hart CW. An approach to the dizzy patient. *Neurology*. 1972; 22: 323-34.
- 5) Bisdorff A, et al. Classification of vestibular symptoms: towards and international classification of vestibular disorders. *J Vestib Res*. 2009; 19: 1-13.